次第

■１.開会

■２.議題

（１）文化振興計画の進捗状況について

・庁内における取組み

・基本目標、資料Ｄ、に基づき令和３年度の庁内における取組みについて説明。
令和３年度は中止事業も含めて 85 事業、このうち新型コロナウイルス感染症の影響により中止になった事業は 15 事業。
令和２年度は中止事業も含めて 83 事業、このうち新型コロナウイルス感染症の影響により中止になった事業は 21 事業
新規事業は２事業、「中学校合唱部支援事業」と、文化の日祝典記念絵画展「未来へつなぐ贈り物」。
２事業とも文化国際課が実施し、令和３年度のみの事業となっている。

・資料１に基づき基本目標本数について説明
令和３年度の事業費は 239,407,000 円（一部指定管理事業費も含む)。

・文化施設（浪切ホール・自泉会館・マドカホール）３館の取組み

・資料Ａ-1、Ａ-2、Ｂ、Ｃに基づき令和３年度の浪切ホール、自泉会館、マドカホールにおける取組みについて説明。
浪切ホールは全 45 事業のうち９事業、自泉会館は全 30 事業のうち２事業、マドカホールは全 20 事業のうち３事業、が新型コロナウイルス感染症の影響により延期又は中止。

・文化団体による取組み

資料２に基づき令和３年度の文化団体における取組みについて説明。

（委　員）浪切ホール実施事業の 41 番「ベーゼンドルファーを弾こう」について詳しくお教えいただきたい。

（事務局）ベーゼンドルファーというピアノは、一般の方々の触れる機会がなかなかないピアノである。そこで時間枠を設け、多くの方に体験いただこうと浪切ホールが企画した事業である。体験したいという方が非常にたくさんおられ、枠がすぐに埋まり、反響がすごく良かったため、今後も継続していきたいと考えているという報告を受けている。

（委　員）１コマ 50 分で参加者が 20 名となっているが、実際に弾かれた方が 20 名なのか。

（事務局）申込者単位の数となっているため、複数人で１コマを利用されている場合もある。

（委　員）素晴らしい企画だと思う。自泉会館や公民館など、ピアノの設置されている場所で、市民がピアノを弾けるという企画が実施されており、岸和田をピアノの町にしたいという言葉も耳にする。道端や公園などでピアノを弾けるような都市もあるようだ。少人数ではあるが新しい取組みだと思っているので、続けていただきたい。

（会　長）ホールの企画というと、お客様に演奏を見せるということがどうしても頭にあるが、それぞれの方がご自身で体験するというのは非常に面白い試みだと思った。先ほど委員がおっしゃったように、ピアノを駅や広場などに設置し、自由に弾くということが非常に広がっている。このような路線も続けていけると非常に良いと思う。

（委　員）現在、自泉会館でもピアノを自由に弾ける事業を行っている。
11 月６日は２時間の間に 14 人の方が来てくださり、その中にはプロの方もいらっしゃった。
音楽の町にしたいという思いが、このまま浸透すればいいなと思う。

（２）文化振興計画懇話会・庁内組織について

・資料Ｅ、資料Ｆに基づき文化振興計画懇話会について説明。
文化振興計画懇話会は 10 名からなる組織であり、９月８日に１回目の会議を開催し、資料Ｆは会議での意見。
・資料Ｅ、資料３に基づき庁内組織について説明。
文化振興計画策定庁内連絡会議は、岸和田市役所内部の組織。
作業部会も庁内組織であり、関係各課より実務担当者を選出し、計画案を議論する。

（委　員）資料Ｆ、意見概要の岸和田の魅力について、記載のとおりだと感じる。
岸和田の男性の７割ぐらいが岸和田から出たことがなく、岸和田がいいところだと思い込んでいるが、祭りは良い面あり悪い面もある。

もう少し岸和田の文化の意識を高めることや、市外からの意見も聞くことも大事。学力の低い大阪の中でも低いなど、色々な面で意識が低いように感じる。

（会　長）もっと色々な魅力を発信していけばどうだろうか。
お城好きな人は一定数いるので、もう少し有効的に発信できればいいのではないかと思っている。
岸和田の男性はあまり引っ越しされないということだが、それだけ住みやすく、過ごしやすいと思っているのではないか。

（委　員）過ごしやすいという考え方が、今と昔では違っている。
岸和田の近くで生まれ育ったが、そこから見た30年前の岸和田はとても魅力的だった。ファッション、文化、音楽どれにしても色々な人がいていいなと憧れを持っていたが、何十年か経った後に岸和田に住むようになった時には、ギャップに愕然とした。
一定数は文化的な方がいらっしゃるが、子ども達が文化に触れる機会が少なくなっている。生活格差が広がることによって、子ども達の間でも文化に触れられる子、触れられない子の差ができてしまう。
文化に触れている人はたくさんいるが、触れていない人との交流の場がないので、誰かが力を貸して間を繋げていく必要がある。
実際、子ども向けの事業を行っても大人が連れて来てくれないと子どもは経験できない。時間がなく、子どもを連れて来られない大人は仕方がないが、そこにうまく手を差し伸べられれば、何かが変わってくるのではないか。

（会　長）以前の会議でも話にでたかと思うが、プロデューサー的な人が必要。
全体を見渡して、人や団体など、色々なものをくっつける存在のような方がいればいいと思う。

（委　員）学習グループ「みち」という団体に入っており、歩ける範囲で色々なところをあるいてきたが、マンホールなど、細かいところまで配慮されている町は、町全体を見まわすとすごくわかる。その部分で考えると、岸和田も良い町だなと感じる。何を基準にして良いというのかはあるが、他市の良いところをみて岸和田と比べるともうひとつだと感じる。しかし、他市から来た方に岸和田を褒められるとほっこりする。文化財でも、岸和田市には杉江能楽堂があり、発表会などを見に行った時、他市にはないからすごく羨ましがられたことがあった。一つ一つみてみると、岸和田にもいっぱい良いところがあるというように物事を考えていかなくてはならないと思う。

（会　長）ずっと中にいると気が付かないことがあると思う。
市外の方の意見もたくさん聴き、今後に活かせていけたらいいのではないか。

（委　員）先ほど委員の方々がおっしゃられたように、岸和田は優秀な文化人を輩出し、歴史があり、文化財等もある。良いところがたくさんあるにも関わらず、なぜ発揮されないのか。
里山の考えで、自然があり、そこに少しだけ人間が手を入れる。あまり人間ばかりが手を入れると自然をかき回してしまう。自然をあくまでも育てていき、頼りないところだけ人間が手を入れる。
このように、あまり市役所の人が色々手を入れるのではなく、市民が自然に育っていくような環境づくりが一番大切かと思う。少し距離をおいて柔らかく、市民の目線で見たやり方でやっていけばどうか。

（３）文化に関するアンケート結果報告について

・資料Ｅ、資料４、資料５、資料６に基づき文化に関するアンケートについて説明。
８月に１カ月間、市民、文化団体、学校教育関係、保育所関係へ文化に関するアンケートを実施。
市民 1,580 人　回答率 29.6%
文化団体 190 団体　回答率 64.2%
学校教育関係 61 校・園、保育所関係 50 所・園　55.9%

（委　員）この結果は公開されているのか、資料５の団体というのはどういった団体にあたるのか、を教えていただきたい。
市民アンケート問４のパーセンテージだが、文化庁が芸術に関するデータを公表しており、そこで見たところ 70%以上あったかと思う。それに比べると岸和田は少ないのではないかと思った。

（事務局）アンケートの公開については、計画に盛り込むなどして公表する予定。
全て記載することは難しいかもしれないが、できる限り公開したいと考えている。
文化団体については、マドカホールを利用されている教室関係・市の育成団体、文化祭・マドカ合唱祭などの事業に参加されている団体、公民館・自泉会館を利用されている団体、を合わせて 190 団体を対象に調査を行った。
問４に関しては、大切である・ある程度大切であるも合わせれば、88.5%と

かなりのパーセンテージにはなるが、ある程度というような少し段階の下がる結果となっている。

（委　員）市民アンケート問 15-2 について、「毎日毎月イベントが行われているとは思えない。マドカに行ってもガランとしていることが多く、統合して活気が出るのであれば集中させる方が良いのではないかと思う。とても良い施設なのに勿体ないですし淋しく思います。」という意見がありますが、事務局は何が原因と考えているのか。

（事務局）今、マドカホールの中心は貸館。となると、毎日ホールが開かれているわけではない。基本的には土日が主になってしまう。そうなると平日に来館された際には、ガランとしていると感じられるのは結果的にあるのではないかと思うところはある。土日であれば、10 月は文化祭シーズンで大変な人出があり、駐車場も混みあった。土日と平日の違いは現実としてあるのではないかと思う。
５年・10 年で考えると、土日であってもホールの稼働率は落ちてきていると感じる。現在は、4・5 月の稼働率が割と低く、7 月で少し盛り上がり、8 月で落ちる。9～12 月で非常に稼働率が上がる。２月も大変な稼働率がある。
ホールの特性の問題と、小部屋の貸館の状況をトータルで見た時に、やはり稼働率が下がってきているなと感じる。それは、文化活動をされようと思われている方、この施設を借りて活動しようと思う方、が微減してきているのではないかと感じる。
これからどうしていくかというところだが、もちろん色々な事業展開をしていき、少しでも賑やかなところを増やしていきたいと思っている。ただ、予算上のこともあるため、そのあたりを含めて検討していきたいと考えている。

（委　員）前回調査より悪い方の理由がどんどん大きくなってきている印象がある。
市民アンケート問 2-1 で、「まちなみや景観など文化的な雰囲気がある」「市民の文化・芸術活動が盛ん」などが下がっており、それだけ皆さんのできることが少なくなってきているのではないかと思い、少し落ち込むところがある。
今の人が求めているものは何だろうかと迷う。もちろんコロナの影響もあるが、何がそんなに皆さんを文化から離していっているのだろうか。

（会　長）おっしゃるとおり、コロナの影響はあると思うが、離れざるを得なくなった観客、鑑賞者が戻ってきていないということもあるのかもしれない。

（委　員）自泉会館で今とても不安なのは、コロナの影響で今まで集客人数を減らして

きたが、来年度から増やそうと思っていること。コロナだけのことならいいのだが、コロナを機に、違う方向へ人が流れて行ってしまっているのではないかと思う。

（会　長）それはあると思う。
私は普段大学に勤めており若い人達と接しているが、若い人はあまり出かけていない。私の若い頃はネットもなかったので、映画が見たければ映画館へ行き、音楽が聴きたければホールへ行くのが当たり前だった。今は何でも配信で観てしまう。文化芸術のために、時間と費用を使うという感覚がすごく少ない。

（委　員）東京の美術館やコンサートはすごく盛況。コンサートにもたくさんの人が来場し、美術館も常に賑わっている。色々な講座があってもすぐに枠が埋まってしまう。大阪市内でも中之島美術館が新しくできているが、そちらの講座もすぐに枠が埋まってしまう状態。やはり、地域性も影響しているのではないか。

（副会長）色々な意見をアンケートに記載しておられるのを拝見し、コロナもそうだがウクライナ情勢の下で今文化を言うのかという言葉がでてきたのでドキッとした。単なる一人の意見ではないなと受け止めた。
だからこそ、文化なのです。お互いが理解しあって人が繋がる、これが文化の力ですから、今こそ文化がどうあるべきかを語りたい。
これはアンケートであって、数字として上下凸凹があるかと思うが、それはそれで読み解いて、個々に文書でご意見いただいているものは、団体なら団体なりに抱えている悩みが率直に出てきているので、何としてでも活かすべきかと思う。
次の新しい計画を作っていく段階にきているのかと思うが、活かすものは活かしながら、少し前進させられるようなところを市民の皆様に見せることができればと思う。

（委　員）事業協会は岸和田方式という文化の成り立ちから、頑張って市民が市民の手によって、市民の為の文化を作り上げていくという考え方でやってきた。
このアンケートを拝見すると、プロに頼ったり、どこからか雇ってきたらいいのではないかというような意見が出てきている。
現在の文化振興計画の趣旨は岸和田方式だと思っている。それが誇りだった。
自分たちのために自分たちのことを自主的に考えることが大切だと思っているが、今の人達は与えられることをすごく大切にしている。

これは、市民性が変わったのか、社会性に引きずられてしまったのではないか。

（委　員）岸和田の人だけというよりも、若い人の考えというか。
自泉会館という伝統のある建物のなかに、塩田さんの斬新な作品が展示されているのを拝見してとても感動した。
コロナが少し落ち着いてから岸和田市内を散策しており、先日もお城での講演を聴いてきたが、市外からも人が集まっており、「充実した」「楽しかった」などの声が聞こえ、沖縄から来られた方には「お城や八陣の庭が綺麗だから天守閣を背景に写真を撮って欲しい」といわれ、嬉しくなった。
久米田寺もすごく古い建物で、講演をすると満員になって抽選でなかなか当たらないということもあり、最近賑やかな印象がある。この波で、だんじりばかりではなく、文化の交流にも力を入れてほしい。
アンケートの質問で心配になったのだが、マドカホール、浪切ホール、自泉会館は統合する方向へむかっているということか。

（事務局）今回のアンケートで初めて施設の統廃合について触れさせていただいている。これは大きな行財政改革の中のひとつで、施設全体が古くなってきており、一方で稼働率の問題もあり、岸和田市の人口の減少も現実的にある。
人口が減ると税収の問題もあり、このまま３つの施設を維持できるのだろうか、ということは数年ほど前から議論に出つつある。やはり事務局としては、稼働率も大事だとはいうものの、文化芸術の場、活動の場というところに重きをおいており、中期的・長期的な視点からは統廃合も考えていく必要がある。
そこでアンケート内で、皆さんの意識がどうあるのかをお尋ねさせていただいた。統廃合については、どちらかといえばＮＯ、という意見をいただいていると思っている。
文化団体にとってはもっと切実で、活動の場は非常に大事だと思っているということがアンケート結果の数字に出ているのではないか。
文化施設の場合は建物だけでなく、中の設備、特に舞台機構・照明・音響については、かなり大掛かりな専門性・精密な設備であるため、それなりに費用がかかっている。こういう現実があるため、何らかの形で議論に進んでいくと思っている。今はっきりと決定しているわけではない。

（委　員）アンケートを実施するという話を聞いたとき、なんで今なのかと思った。
コロナの影響で数字がすごく変わるだろうと思っていたので、出てきた数字をどこまで信用していいのか。

マイナス面の部分はコロナを考慮して考えないと、本当のことは分からないのではないか。

（会　長）おっしゃられるとおり、理屈では違う数字になっている可能性もある。
コロナが収まった後にまたアンケートを実施していけば、コロナの時期はどうだったのか、などの実証ができるかもしれない。

（委　員）以前もこの場で、大阪府の文化は北高南低といったことがあるかと思うが、それは 40 年以上ずっと思っている。原因は大阪府にもあるのではないか。
１つは、阪大豊中移転から始まり、阪大医学部付属病院、関西大学など、大学が北部にある。なぜ南部に来ないのか。原市長の時に国際大学に誘致し、準備段階で話がなくなり大変だったということがあったが、大学を持ってくるという発想は素晴らしいと思う。もちろん伝統文化と若者の文化がちがうことは分かるが。例えば京都であれば、大学生が卒業すると地元へ戻ったり、東京へ就職するなど、４年での新陳代謝があるからいつまでも若いまちなのだと思う。
文化は、今日明日ですぐにできるのもではない、何十年の計だと思う。
文化＝伝統だと考えているが、この２年間で、色々な意味での常識が通じなくなっている。

（委　員）文化も教育も色々なことを知りたいと思うことが大事。子どもを育てていかないと文化の発展もしないし、伝統も残らない。だから、今私たちが取り組まなくてはいけない課題は、子どもをどう育てたいかをしっかり決めることだと思う。

（委　員）自分たちがずっとやってきた方向は、決して間違いではないと思っている。
コロナの影響で子ども達はマスクをしての合唱練習から始まり、ようやく今年になって色々なところへ出かけられるようになってきた。
マスクなしの舞台に出演するため、３年ぶりにマスクをはずして歌ってみると、マスクをしている時とマスクをしていない時の口の開き方が違うので、口の開き方、発声の仕方ができなくなっていて、指導者たちは愕然とした。
しかし、大きい子ども達はすぐに以前身に着けていた技術を取り戻していった。こういうところが見えて、３年間細々とやってきたが、決して間違いではないと感じた。
岸和田も色々な意味で文化への意識が低いというのは感じているけれど、その中でもコツコツとやっていくしかない。
子どもの合唱団の場合は、子どもを育てるだけではない。その後ろには必ず

保護者がいて、保護者が頷かなければ前には進まない。今の若いお父さん、お母さんに、子どもを通して、音楽というのは子どもたちの感性を豊かにするということを知ってもらわないといけない。そこで苦労したり、考えたり、立ち止まったりすることはあるが、できるところから進めていこうと、指導者・運営者一同思い返している。

やはり子ども達の力はすごい。それを感じるときの感動や、子ども達に教わることが大きく、やっていてよかったと思う。

（委　員）コロナ前提でアンケート結果を比べられないということや、祭礼を省略するなど、コロナを言い訳のように使っている部分もあるのではないかと思っている。先ほどお話があったように、コロナだからしないのではなく、どんなふうにしていくか、できるところから進めていこうか、という考えはまったくその通りだと感じる。

アンケート結果で、７年前とコロナ以外で何が違うのかを考えてみたところ、やはり、ＳＮＳ、YouTube、バーチャルの世界がどんどん進んできていて、その場に行かなくてもVR体験ができるところである。

近所の公園へ行くと、子ども達が元気に身体を動かして遊んでいるかと思いきや、ゲームを持ち寄って通信して遊んでいたり、インターネット上で友達をつくり、家の中で一緒にサバイバルゲームをしていたり。昔であれば実際に集らなくてはいけなかったことが、今は簡単に自宅でできてしまう。

その中で、動物園、水族館、海外旅行なども体験でき、その場に出向くことが必要なくなってきているが、東京ではそんなことはないという話があった。

私はダンスの教室に携わっているが、浪切ホールの大ホールで無料で誰でも入れるような発表会を行っていた時は人気だったが、有料のチケット制で開催したところ、お客さんが入らなくなった。これは、東京と大阪・泉州の性質の違いではないかと感じる。そこに行く価値、そこでしか感じられないような価値があるという風に思ってもらえなければ、文化に触れに行くというようにはならない。

（事務局）アンケートは、計画を立て直す際に１つの材料にしたいと考え、この度実施した。

コロナが３年ほど前から未だにあり、これは抗えない事情ではあった。それ故にアンケートの項目の中でも、コロナに対しての質問を抜きにもできない。

コロナによって、どうしても何らかのかたちで文化芸術へ大きい影響が出ることも当然分かっている。それは皆様それぞれの活動の中で実体験されているかと思う。もちろん文化芸術以外の生活面においても、非常に大きいと思って

いる。

　そのうえにウクライナの問題、いろいろな物資の金額や電気代の高騰などがあり、この先私たちの生活がどうなっていくのかというところも感じている。

　その中で文化芸術が生活よりも大切かというご意見もありましたが、やはり今後未来のことを考えた時に、文化芸術というのは大事なものだということを一番に訴えていかなければならないというのが事務局であり、こちらの審議会でのご意見ではないかと思う。

　今回のアンケート結果が全ての正解だとは思ってはいない。１つの材料としてうまく活かしていきたいと思っている。

（会　長）皆様、色々なお立場からご自身の経験も踏まえて様々なご意見をいただき、ありがとうございました。

■３．閉会